

〈第20回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

## 第20回 EICA 研究発表会参加に関する感想

株式会社タクマ 地 村 篤

私自身、EICAの研究発表会に参加するのは今回が2回目でした。初めて参加した昨年は、未来プロジェクトIIのメンバーとして研究発表会でポスターセッションを行なったため、自分たちの発表に関する対応でいっぱいでした。しかしながら、今回は実行委員のひとりとして1階講堂の会場を取り仕切る役目であったこともあり、講堂で開催されたパネルディスカッションや分科会を終始聴講することができ、非常に有意義な時間を持つことができたと感じております。

第1日目のパネルディスカッションでは、地球温暖化防止対策は重要ではあるけど、過度に意識をすることは別のリスクや問題を孕む恐れがあるという話がとても心に残りました。2050年にCO<sub>2</sub>排出量半減ということは「言うは易し」であり、実際に世界全体が取り組むことになると、先進国は現状から90%以上削減する必要があるということは、話を聞くまでは「半減なら頑張ったらできそうだな」と漠然と考えていただけに、とても衝撃的でした。赤井先生の話では、実現可能な目標設定を長期的な視野に立って行なうことが地球温暖化防止対策では重要だということを、具体的な数値でもって示されていた点に納得させられました。

また第2日目のディスカッションは上下水道に関する維持管理がテーマでした。そのテーマに沿って維持管理コスト、自治体の財政、人材の育成、技術の伝承など、さまざまな切り口からの話が出たものの、どこからみてもこれから先は非常に厳しい状況が待ち構えているという認識を持たざるを得なくなりました。私自身の仕事は上下水道と直接関連はありませんが、ごみ処理の分野に関しても恐らく構図は同じでしょう。

しかしながらそれと同時に、悲観ばかりしていても仕方がありません。人材の育成、技術の伝承という切り口であれば、我々の世代が日頃の仕事を通じて少しずつ積み重ねることで、何も意識しなければ将来遭遇するかも知れない厳しい状況を、少しでもいい方向に向けることができるはずだともおもっています。

今回の研究発表会（両日のパネルディスカッション）では、各先生の話聞きながら「技術者として今後仕事を通じてどのような視点を持たなければいけないのか？」ということを考えさせられました。これからは実務を捌くことだけが仕事ではなく、その仕事の背景にある問題や事柄を意識することの方が大事だという意識を忘れずに日頃の業務に取り組んでいきたいと思う次第です。